

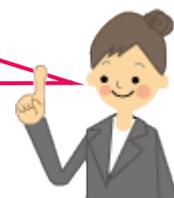
# はあとふる

Info. 15



児童・生徒の学習上、生活上、生徒指導上の困難さ（課題）が生じたときに、先生方お一人で悩んでいませんか？今回は、全校的な教育支援体制を確立し、チームで対応するための「ケース会議」について掲載します。

複数の視点で児童生徒の行動を捉え、課題の本質に迫る手立てや環境調整を検討することが、学習時の落ち着きやトラブル解消、学力の向上につながります。



## ケース会議の進め方

<手順1>

気になる子どもの行動を一つ取り上げ、具体的な行動について話し合しましょう。



「暴言を吐く」  
「授業中、指示を聞かない」  
「離席をする」など、一つの行動を取り上げましょう。

<手順2>

子どもの立場から、子どもの思い・考えや行動の背景・要因を推測したりして、つまずきの原因を考えましょう。

どの行動をとっても、子ども一人一人の背景や要因は違います。

子どもの思いや背景を考えずに、かかわり手の思い（支援策）を押し付けすぎると、うまくいかない原因となります。



<手順3>

たくさんの支援策を出し合い、その中から、実践したい支援策を選び、実践を共有、確認しましょう。



いくつか出た支援策の中から、できそうな支援策を選び、次の日からのかかわりに生かします。

話し合いがすぐに生かせるようにすることが大切です。

○話し合える気軽なメンバーで、時間を決めて実施しましょう。  
○話し合いで出た意見は否定せず、多くの意見が出るような雰囲気の話し合いを目指しましょう。

